

多摩支部会報

2019年全日本大学野球選手権優勝特別号
令和元年6月18日 発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏



38年ぶりの優勝

3年ぶり・18回目出場

梅雨の晴れ間、燦燦と注ぐ真夏並みの太陽の下、ここ神宮球場は第68回全日本大学野球選手権がその決勝戦を迎えていた。多くの校友・ファンが、特に1塁側スタンドに集結した。先行明治側スタンドである。

13時ちょうどにプレーオフ、森下投手が第1球を投げ熱戦が始まった。

3回表に敵失もあり3点先行したが以降、双方0行進が続く。8回を除き毎回ランナーを出すも本塁は遠かった。ここ1本が出ない。

佛教大学は4回以降毎回ヒットで詰め寄る。しかしホームを踏めない。ピンチを捕手の西野が刺し、また野手も好守備を見せる。

3-0で迎えた9回表、明治はヒットを集中させ、留めの3点をもぎ取る。逆転の佛教大学も粘りに粘り遂に1点を入れたが最早これ

まで、最後は10個めの三振を奪いゲームセット。6対1で歓喜の勝利。

1981年第30回以来の38年ぶりの悲願をここに達成した。(通算6回目の優勝)

優勝の瞬間、紫紺のテープが宙に舞い、選手たちはマウンド付近で「日本一」のガッツポーズ。良くやった、素晴らしき後輩たちよ!

(記事/写真・飯田)

栄光へ撃破の軌跡

2回戦 福井工業大学大学 (9年連続・42回目)

3回戦 東洋大学 (3年連続・13回目)

4回戦 東京農大北海道オフォーツク

(2年連続・16回目)

決勝戦 佛教大学 (5年ぶり・20回目)

(C) 明大スポーツ



優勝報告会
(写真：江面氏)

悲願達成だ。初優勝を狙う佛教大（京滋大学野球連盟）との決勝は3回に3点を先制すると、先発の森下暢仁主将（政経4＝大分商）が力投。9回に1点を失うが、10奪三振完投勝利でチームを日本一に導いた。同大会の優勝は1981年以来、38年ぶり6度目。最高殊勲選手賞と最優秀投手賞には大会通算18回1失点で2勝を挙げた森下、首位打者賞には13打数7安打で打率5割3分8厘の北本一樹内野手（文4＝二松学舎大付）が選ばれた。4回以降は毎回走者を出す、150キロ台の直球でねじ伏せる。「終盤の弱さは課題だったので、とにかく気持ちを出して投げた」とピンチを切り抜けるたびに雄たけびを上げた。その姿にバックも無失策、捕手の西野も盗塁阻止で応える。湿っていた打線も9回に喜多真吾内野手（法4＝広陵）の適時二塁打で待望の追加点を奪い、勝負あり。「焦らずに試合を進められた」（西野）と落ち着いた試合運びで挑戦者を一蹴した。記事&上段写真：明大スポーツ転載

天皇杯 サッカー部 J1に挑戦

川崎フロンターレ

天皇杯 JFA CHAMPIONSHIP
第99回全日本サッカー選手権大会

VS. 川崎F
kawasaki frontale

7.3 Wed.

19:00 KICK OFF
@等々力陸上競技場

J1に挑んで越えろ。

- 日程：2019年7月3日(水)
 ■時間：19時00分キックオフ
 ■場所：等々力陸上競技場
- ・東急「新丸子」駅より、徒歩約10分 東急・JR「武蔵小杉」駅より、徒歩約15分
 - ・JR南武線「武蔵中原」駅より、徒歩約12分
- **応援に行こう!!**

編集後書 令和初の全日本大学野球選手権の優勝は母校明治大学であった。3年ぶり18度目の出場で通算6度目の優勝旗をもぎ取った。東京六大学春季リーグの覇者として、その実力を見せつけた。ラグビーについての日本一。良くやった、ありがとう！神宮球場を揺るがした”オー明治”その余韻が未だに残る。J3ブラウブリッツ秋田を撃破したサッカー部、次は君たちだ！（広報委員会）、